

令和3（2021）年度

女性の地域活動推進セミナー（女性教育指導者研修）

第8回 実施報告

実施日：令和4（2022）年 1月 12日（水）

女性の地域活動推進セミナー（女性教育指導者研修）の第8回は、午前は宮城学院女子大学 生活環境科学研究所 客員研究員 浅野富美枝氏のリモートによる講話、午後はグループ研究発表会と閉講式を行いました。

講話「地域で活躍するリーダーに求められること」

宮城学院女子大学 生活環境科学研究所 客員研究員 浅野 富美枝 氏

講話は、Zoomによるリモートで実施しました。

浅野氏は、家族社会学、ジェンダー論が御専門で、特に少子高齢化が進む地域社会をフィールドにした女性たちの生き方をテーマとして研究されており、その中から数多くの事例や御自身の経験をもとにお話をいただきました。

事例では、支援を必要とする方々との密な関わりの中で、本当に支援すべきことを見出し、活動していくことの意義についてふられました。また、地域リーダーとしてどのような視点や資質が求められるのか、5つのポイントにまとめ御教示いただき、その一つひとつに受講者は頷きながら耳を傾けていました。

まとめとして、「地域で活躍するリーダーのPDCAサイクル」について述べられ、受講者に対して「地域で活躍するリーダーは、現場を熟知する皆さんです」と温かいエールを送っていただきました。



グループ研究発表会

今年度のセミナーでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響からフィールドワークを中止とするなど、グループ研究は予定どおりにいきませんでした。各班とも研究の進め方を工夫しながら今回の発表会を迎えました。

受講者の皆さんは非常に緊張している様子でしたが、マスク越しでも、はっきりとわかりやすく伝えることができました。

①A班 「これからの居場所のプラットフォームとは」

A班のグループ研究は、受講者個々の関心事を共有することからスタートし、「つながり」「居場所づくり」の2つのキーワードを見出しました。そこで、各々の関心のある地域の居場所づくり（「未就学児・子育て中・高齢者・障害者の居場所」「青少年の居場所」「中高生の居場所」「孤立感のある人の居場所」）について事例を調査し、それぞれの事例から見えてくる居場所の共通点や、居場所づくりに必要な視点について探ることにしました。

事例を調べていく中で、それぞれの居場所の意義や理念について確認するとともに、地域の拠り所となる「居場所」「体制」「システム」の必要性について共通認識をもちました。また、同時に運営資金や場所の選定、周知方法、支援体制（人数）等の課題も見えてきました。そこで、各々の居場所を地域の中で1か所に集約し、様々な社会課題を「共助」の力で乗り切る体制をつくっていくことを提言しました。つながりを生かした社会課題の解決、共生社会の実現を目指して、受講者は活動に取り組む意欲も表明しました。



②B班 「男女共同参画とは？」

B班は、「男女共同参画社会」について様々な分野で日本は遅れており、なぜ進まないのかという疑問から、研修で学んだ内容を参考にしながら男女共同参画社会について様々な視点から見つめ直すことにしました。

はじめに、男女共同参画社会とはどのようなことを目指す社会なのかについて、内閣府のWebサイトなどをもとに確認しました。次に、日本の現状、特に女性の社会参画について、ジェンダーギャップ指数や年齢階級別労働力率の推移などをもとに考察しました。

また、「女性」のことはばかり論じられる傾向があると感じていたことから、「男性がどう考えているのか」や「男性はどうすべきなのか」などについても調べました。さらに、受講者自らが地域団体の婦人部などで活動してきた経験から女性リーダーの在り方にも関心があり、男女共同参画社会についてどのように考えているのかなどについて、女性自治会長や女性議員への聞き取りを行い、その結果もまとめました。

単にすべてにおいて男女平等ということではなく、男女にとらわれず一人一人が対等なパートナーであり、喜びも責任も分かち合い、互いに協力してその能力や個性を十分発揮できる社会を目指し、調査から見たことを大切にして地域活動に取り組みたいと、その思いを発表しました。



③C班 「子育て現状調査」

C班は、ボランティアを受ける側の思いやニーズを知り、今後の自身の地域での子育て支援活動を改善することを目的に、支援を受ける側と支援活動をする側の実態（思い）やニーズを調査し、現在の受講者それぞれの活動内容に照らして改善策を考えました。

調査結果から、

○家事・育児は母親がすべきという思い込みの存在

→アンコンシャス・バイアス解消に向けた一歩を

○子育てについて頼れない・相談できない悩みのある親の存在 →「独りで子育てをさせない体制作り」

○「施設の認知度が低い」「利用の仕方がわかりにくい」「情報が届いていない」などの理由から、ファミリーサポート等の施設が利用されていない

→「活動や場所の啓発・広報等の周知強化」「ニーズに合う専門機関・相談先につなげる必要性」

などが見えてきました。これらの結果から、ゆとりをもっていきいきと暮らしていける社会を目指して、「地域のコミュニティをつくること」の必要性を感じました。その実現に向けて、受講者それぞれが自分たちにできることを一つひとつ考え、一歩ずつ進めていく決意を示していました。



最後に、県生涯学習課和久副主幹より講評をいただきました。

講評では、それぞれのグループ研究の良かった点を挙げ、各班でまとめた提言・提案は受講者自身の今後の活動の指針となりうることを伝えてくださいました。また、自分たちの学びや気づきを大切に、仲間と共有し活動を進めていくことの重要性とともに、今後に向けた励ましの言葉をいただきました。

閉講式

修了証授与では、所長から修了者一人一人に修了証を授与しました。所長あいさつでは、人とのつながりや仲間と協力し合うこと、特に、受講者それぞれの視点で同じ目的に向かい、意見を出し合い、一つの計画を作り上げることの意義について触れ、研修終了後も、仲間とともに高め合い、仲間どうしの「つながり」を生かして地域づくりを進め、地域活動のリーダーとして活躍してほしいという受講者への期待が伝えられました。



<受講者の感想から>

- 改めて地域社会のコミュニティにおいての人と人のつながりの大切さが分かりました。話し合い、分かりあうことで、お互いに住みよい社会をつくれると思いました。
- グループで活動、研究、発表することで、メンバー同士お互い思いやり協力することができました。地域活動に対する意欲がわいてきました。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp